

令和6年度 岡山県学力・学習状況調査結果の概要

1 調査の実施状況

(1) 調査の目的

- 児童生徒の学力及び学習の状況を把握・分析して指導の成果と課題を検証・改善する。
- 調査結果に基づき個々の児童生徒が自らの学習等の改善に資する。

(2) 調査実施日

令和6年4月18日(木)

(3) 受検者数・受検校数・実施教科等

※質問紙は県独自調査

	県受検者数 (受検校数)	全国受検者数	実施教科等
小学校第3学年	8,838人 (271校)	約8万人	国語 算数
小学校第4学年	9,197人 (277校)	約10万人	国語 算数
小学校第5学年	9,113人 (279校)	約11万人	国語 算数 質問紙
中学校第1学年	8,964人 (117校)	約9万人	国語 数学 英語 質問紙
中学校第2学年	8,671人 (116校)	約10万人	国語 数学 英語 質問紙

2 学力調査の結果

教科・学年別標準スコア

全国の平均正答率を50(全国値)としたときの換算値

	国語					算数・数学					英語	
	小学校			中学校		小学校			中学校		中学校	
	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	1年	2年
R6	49.5	49.1	49.4	49.8	49.9	49.4	49.7	49.4	49.6	50.3	49.9	49.3

中学校は、2年数学で全国値より高く、その他の学年、教科は全国値より低い。
小学校は、全ての学年、教科で全国値より低い。

3 学習状況(質問紙)調査の結果(岡山県独自の調査のため、全国平均との比較はない。)

(1) 夢育

① 将来の夢や目標を持っている。(夢・目標)

《「当てはまる」と回答した割合〔単位：％〕》

	小学校5年	中学校1年	中学校2年
R6	71.8	60.5	43.7

「当てはまる」と回答した割合は、学年が上がるにつれて下降している。

(2) 授業理解・学習習慣

- ② 国語の授業の内容はよく分かる。(理解度 国語)
 ③ 算数(数学)の授業の内容はよく分かる。(理解度 算数・数学)
 ④ 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習1h以上)

《②・③肯定的回答割合、④1時間以上と回答した割合〔単位：％〕》

	小学校5年			中学校1年			中学校2年		
	理解度 国語	理解度 算数	学習 1h以上	理解度 国語	理解度 数学	学習 1h以上	理解度 国語	理解度 数学	学習 1h以上
R6	88.3	83.8	56.4	88.4	82.8	56.2	88.2	79.2	54.8

中学校は、2年数学以外で理解度の肯定的回答割合が、80%以上であった。
 小学校は、全ての学年、教科で理解度の肯定的回答割合が、80%以上であった。
 学習1h以上の回答割合は、学年が上がるにつれて減少している。

(3) 学びに向かう力

- ⑤ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。(自己調整力)
 ⑥ 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。(主体的な学び)
 ⑦ 学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。(対話的で深い学び)

《肯定的回答割合〔単位：％〕》

	小学校5年			中学校1年			中学校2年		
	自己調整力	主体的な 学び	対話的で 深い学び	自己調整力	主体的な 学び	対話的で 深い学び	自己調整力	主体的な 学び	対話的で 深い学び
R6	69.0	74.8	83.1	71.4	78.1	82.0	64.0	74.9	83.5

自己調整力の肯定的回答割合は、中学校1年で最も数値が高かった。
 主体的な学びの肯定的回答割合は、全ての学年で70%以上であった。
 対話的で深い学びの肯定的回答割合は、全ての学年で80%以上であった。

(4) ICT機器の活用

- ⑧ 授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。

《「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上～月1回未満」と回答した割合〔単位：％〕》

	小学校5年			中学校1年			中学校2年		
	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上～ 月1回未満	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上～ 月1回未満	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上～ 月1回未満
R6	23.6	29.8	46.3	39.8	30.7	29.3	26.2	37.2	36.4

「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した割合を合わせると50%以上であった。

今後の取組

※ 岡山市を除く市町村の公立小・中学校及び義務教育学校、県立中学校等を対象としている。

昨年度の岡山県の課題

- ▲ 1 小学校算数、中学校数学において、正答率40%以下の割合が全国値より高い。
- ▲ 2 生徒が主体的に家庭学習に取り組む仕掛けに基づく家庭学習時間の確保が必要である。
- ▲ 3 「ICT機器の活用」に関する質問項目で、「ほぼ毎日」と回答した割合が全国値より低い。
- ▲ 4 学校質問調査における質問項目の、校内研修等の値が全国値より低い。

現状

- 1 中学校数学は減少し(◎)、小学校算数は依然として全国値より高い(▲)。
- 2 授業時間以外での「学習1時間以上の割合」及び自己調整力に関わる質問項目において、全国値より低い(▲)。
- 3 全国値を上回っている(◎)。
- 4 全国値を上回っている(◎)。

今年度の県教委の取組

継続的な課題の解決に向け、ターゲットを明確にして取組を推進する。

【重点課題①】 小学校算数における正答率40%以下の割合

- 市町村教委及び授業改革推進チームと、調査分析の視点及び児童のつまづきを単元や学年を超えて把握する考え方を共有
- CBT (Computer Based Testing) 方式による定着状況ウォームアップ及び定着状況確認テスト等を充実

【重点課題②】 生徒の家庭学習時間の確保と主体的に家庭学習に取り組む仕掛け

- 授業改革推進チームを核として資料等を作成し、持ち帰りを含めた児童生徒の1人1台端末の効果的な活用による家庭学習の推進を図る考え方等を提供

その他の課題

- ・ 「実践的な研修を行っていない」と自己評価している学校もあるため、校内研修等の充実に向けた継続的な支援の実施
- ・ 主体的・対話的で深い学びを実現し、児童生徒が生涯にわたって能動的に学び続けられる力を身に付けられるよう、岡山型PBL及び学びを委ねる場がある授業づくりの重要性についての考え方や好事例等を提供
- ・ 各学校及び市町村教委等の課題に対応できるような、ICT機器活用の伴走的支援の実施

各学校の取組

- 令和9年度から完全実施予定のCBT方式調査への対応も含め、定着状況ウォームアップ等の活用により、一層短いサイクルで学習内容の定着状況を確認するとともに、児童生徒に付けたい力を付けられる授業づくり及び実践的な校内研修等を充実していくことにより、当該学年で身に付けるべき学習内容を確実に定着できるようにする。
- 個々の児童生徒の実態に応じた家庭学習の推進に向け、持ち帰りを含めた1人1台端末の効果的な活用を検討するなど、主体的に学習に取り組むことができるようにする。
- 学習者用デジタル教科書を含めたICT機器の活用や岡山型PBLを推進し、児童生徒の主体的・対話的で深い学びを促進する。